

# こどもと健康

NO・154

2015・2・12

## インフルエンザ注意報、発令中！

### インフルエンザ流行、ピークは越えた！？

昨年12月からこの5年間で最も早く流行が始まったインフルエンザは年が明けて3学期が始まると、学校で流行が拡大し、1月5日からの第2週には定点当り大阪府27.6、堺市では32.6と急増し、警報レベルを超えました。しかし、その後は堺市では29.4、26.4、18.6と次第に減少してきました。1月19日には堺市内で学年閉鎖が2学年、学級閉鎖が36クラスとなりましたが、次第に減少して2月9日には2学年、6学級に減少して南区では学級閉鎖はなくなりました。これまで、堺市では学年閉鎖が16学年、学級閉鎖が146クラス（御池台小学校は2クラスの学級閉鎖）になりましたが、流行は保育所、幼稚園に拡大しており、今暫く注意が必要です。今シーズン、インフルエンザの流行が始まって以来、A香港型が流行の主流で全国の衛生研究所のデータではA香港型が96.6%、B型が2.6%、AH1pdm09（6年前に大流行した所謂、新型）が0.8%でした。流行中のA香港型の変異が進みワクチン株と隔たりがあるとの報告が日本だけでなく、アメリカ、ヨーロッパからもありますので、予防接種を受けた方も油断せず、うがい、手洗い、マスクで少しでも感染のリスクを下げましょう。幸い、タミフル、イナビル、リレンザ等の抗ウイルス薬は良く効いているようです。

例年、A型に引き続いてB型が流行する傾向があります。堺市内の30医療機関からの2月2日からの毎日報告ではA型が95%を占めますが、2月8日の泉北急病診療センターの迅速検査ではB型が10%を占めるようになりました。2月下旬以降にB型の流行が拡大する恐れがあります。A型とB型は別のウイルスですので、一度罹った方も油断しないでうがい、手洗い、マスクは続けましょう。

### RSウイルス感染症再び、流行！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。インフルエンザウイルスと同じく、冬の「かぜ」ウイルスですが、今シーズンは昨年8月末から保育所を中心に流行が始まりました。潜伏期は4~5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。乳幼児特に、1歳未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして高熱も出て呼吸数も増し、息苦しくなることがあります。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎、気管支肺炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸にな

ることもあります。乳児は気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎へと急速に進行することがあるので、特に6ヶ月未満の乳児は注意が必要です。8月末から流行が始まり9月末をピークに一旦減少しましたが、11月中旬になって再び増加して感染症の上位を占めます。特に今でも乳幼児ではインフルエンザと同じ位に流行しています。今シーズンになって当院から6名が気管支肺炎を合併して入院されました。迅速検査がありますので、強い咳や喘鳴を伴う乳幼児は早めに受診しましょう。何回でも罹りますが、初感染の 때가最も症状が強い傾向があります。

## 堺市子ども急病診療センター工事進む

現在堺市の小児初期（一次）救急は私が管理医師をしている堺市泉北急病診療センターが担っていますが、今年の7月1日にJR津久野駅南の家原寺町に移転新築される堺市総合医療センターに隣接して堺市子ども急病診療センターが建築工事中です。7月1日からは小児科は子ども急病診療センターに集約され、泉北急病診療センターは土曜、休日の内科のみになり、宿院急病診療センターは廃止されます。泉北ニュータウンから少し距離が遠くなりますが、堺市の小児救急医療を継続的に維持する為ですので、ご理解下さい。今年の年末年始に泉北急病診療センターには1日500～650名の患者さんが受診し、小児科医4名、内科医4名の態勢で何とか切り抜けました。新しい施設に行っても宿院急病診療センターの小児科が廃止されるので、年間3万人の小児救急患者さんを予測しています。現在、小児救急医療検討委員会で態勢づくりを急いでいる所ですが、何といたってもマンパワーの確保が課題です。堺市医師会の小児科医は勿論、近大小児科、府立母子保健総合医療センター小児科各科を始め、各大学や病院小児科にも協力をお願いしているところです。新しく子ども急病診療センターが機能し始めれば、13年間小児救急に取り組んできた私の責任は果たされ、小児救急から手を引くことが出来ると思っています。

## みずぼうそうワクチンを接種しましょう

保育所、幼稚園で毎年乳幼児に流行する「みずぼうそう」ワクチンが日本でも昨年10月からやっと定期接種化されて無料になりました。対象は1歳と2歳児で1歳のお誕生日がすんだらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同じ時期に1回目の接種をします。2回目の接種はMRワクチンが就学前の年長児ですが、みずぼうそうワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。ワクチンを接種すると1ヶ月位で免疫は95%程度出来ますが、時間の経過と共に減衰して保育所などで流行すると軽く罹るケースが結構あります。これを避ける為に、2回目のワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。既に罹った方や2回接種した方は対象外で、1回接種した方は6ヶ月以上あけて2回目を接種します。尚、平成27年3月31日までに限り、3、4歳児も1回だけ接種できますが、過去に1回でも任意接種を受けた人は対象外となりました。既にみずぼうそうに罹った人も対象外です。1歳のお誕生日になると、はしか・風疹混合（MR）ワクチン、みずぼうそうワクチンの1回目とヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの追加の4本の接種が必要となります。4本の同時接種も可能ですが、ヒブワクチン接種は3回目の接種から7ヶ月あける必要がありますので2度に分けて接種されても構いません。

**母子手帳で予防接種漏れを確認しましょう！**